

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成26年6月8日現在

機関番号：34310
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2011～2013
 課題番号：23330186
 研究課題名（和文） 貧困に対する子どものコンピテンシーをはぐくむ福祉・教育プログラム開発
 研究課題名（英文） Developing the Welfare-Education Program for Enhancing Children's Competency against Poverty

 研究代表者
 埋橋 孝文（UZUHASHI, Takafumi）
 同志社大学・社会学部・教授
 研究者番号：60213427
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）13,800,000円、（間接経費）4,140,000円

研究成果の概要（和文）：

- 1) 子どもの貧困は機会の剥奪と捉えるのが適当であり、貧困家庭の子どもたちは自己肯定感が低い。
- 2) 「貧困／不利／困難」を抱えることの多い児童養護施設の出身者に対しても、自己肯定感を高めることが有用である。
- 3) 母子寡婦福祉法が時代遅れになっている。母子の閉じられた関係を避けるために「二者関係を超える他者や居場所」が必要である。
- 4) 就労自立に困難を抱える若者に関して、相談者自身の「成長」を確かめ合う「プロセス」が重要である。

研究成果の概要（英文）：By conducting several kinds of surveys, we got the below fact-findings.

- 1) Child poverty should be understood as deprivation of “opportunities“ and self-esteem of children in poverty is low.
- 2) It is important to enhance self-esteem of care-leavers, who tend to have various disadvantages, by providing work opportunities and accommodations.
- 3) The current law for promoting lone-mothers' welfare is now out-of-date and to avoid the enclosed relation between lone-mothers and their children, lone-mothers are recommended to have some “others” who support them or places where they fit in.
- 4) It is important to evaluate the “process” of consulting services to young people who find some difficulties to get jobs.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学 社会福祉学

キーワード：子どもの貧困 コンピテンシーとレジリエンス 貧困に抗う力 貧困の再生産 母子家庭 自立に困難を抱える若者 児童養護施設 自己肯定感

1. 研究開始当初の背景

(1) 2006年7月経済協力開発機構(OECD)対日経済審査報告書は、日本の相対的貧困率がOECD諸国のなかでアメリカに次いで2位であることを明らかにし、大きな衝撃を与

えた。同報告書は子どもの貧困率についても①日本の子どもの貧困率が徐々に上昇しつつあり2000年には14%となったこと、②これはOECD平均と比べても高いこと、③母

子世帯の貧困率が突出して高いこと、を明らかにした (OECD2006)。

(2) 上の OECD 報告書を受けて、それまで子どもの貧困に必ずしも sensitive ではなかった国内の研究も近年著しく進展することになった。日本では橋本 (1997) を嚆矢として格差研究が数多くなされたが、それは格差一般の是非をめぐる議論に拡散することによって、不平等の底辺に位置する「許容できないもの」(岩田 2007) としての「貧困」についての究明はそれほど進まなかったし、子どもに注目することはあまりなかったのである。

(3) 子どもの貧困が深刻なのは、本人の責任ではなく、また、低学力や健康格差あるいは意欲格差を通して貧困が世代を通して継承される可能性があるためである。

(4) ただし、上の点については仮説が提示されていてもそれを実証的に明らかにするまでは至っていない。たとえば、山田 (2004) は「希望をもてる人ともてない人」、「希望格差」があることを示唆したが、それが実際に子どもの間でそのように広がっているのかについては確かめられていない。

2. 研究の目的

(1) 本研究の第 1 の目的は、親の社会経済階層と子の発育環境および子の学力、健康状況、生活習慣と生活意識などとの関係を量的調査を通して明らかにし、貧困の連鎖を断ち切るためには何が有効であるかを示すことである。この場合、貧困は経済的なものに限定せず、健康や社会とのつながりなどを含めて考えている。

(2) 本研究の第 2 の目的は、貧困に直面する子どもが学習により自己の能力を高め、人生を切り開いていくことへの意欲やスキルを身に付けることにより、世代的な貧困の連鎖を断つための福祉・教育プログラムを開発

することである。

(3) とりわけ児童養護施設の出身者や母子家庭の子どもたち、あるいは、少し年齢が上がるが、就職困難な若者や自立に困難を抱える若者の場合、こうした「不利」や「困難」が大きくなるのしかかることになる。こうした層に焦点を当てながら「貧困／不利／困難に抗う力」について考え、それを育成・促進するサポート・システムのあり方を検討する。

2. 研究の方法

文献研究に加えて、1) 大阪市教育委員会事務局の協力を得て、大阪市内の小・中学生とその保護者を対象にしたアンケート調査を実施、2) 就職困難問題を抱える若者に関して京都市ユースサービス協会の職員との共同研究を実施、3) 児童養護施設を対象にしたアンケート調査、施設職員へのインタビュー調査、併せて、施設退所者へのインタビュー調査も実施、4) 加賀屋の事業所内保育施設へのヒアリング調査、全国母子寡婦福祉団体協議会へのアンケート調査、母子生活支援施設、母子家庭の母親へのインタビュー調査を実施。

3. 研究成果

(1) これまでの研究では、第 1 に、「親の貧困」と区別される「子どもの貧困」の特性の解明はいまだ不十分であり、第 2 に、現場(学校、福祉施設、地域)でそれにミクロ的にどのように対応すべきか、という問題についてはあまり深められていない。「子どもの貧困」をめぐって、マクロ的貧困研究とミクロの福祉・教育実践を繋ぐメゾ領域が未開拓であり、missing ring となっており、解決、解明すべき課題は多い。

(2) 子どもの貧困は様々な機会の剥奪と捉えるのがもっとも適当であり、貧困家庭の子どもたちは自己肯定感が低い。

(3) 「貧困から脱出する学びと援助のしくみ」をつくり、貧困の危機にさらされる子どもたちのためのエンパワメントの実現は福祉的施策のみでは可能にはならず、福祉と教育を架橋したプログラムの開発が必要である。既存の施策や事業という枠組みを超えて、子どもを守りつつ育て、エンパワメントをめざすという志向性を明確にしたプログラムが求められている。そうしたプログラムは、コミュニティ・ベース、施設ベース、学校ベースですすでに行われていることの成果と課題を確かめることを通じて展望されうるものであり、その開発は全く新しい何かを発案するというよりも、すでにある社会的資源やサービスを有効に活かしながら考えていくべきものである。

(3) 子どものもつ成長過程にあるという特徴を考えた場合、その貧困は、彼らの発達に与える影響という点から動的にとらえることが重要な意味をもってくる。このことは、貧困のなかで育つ子どもたちのその時点での影響と同時に、それらの影響が、彼らが大人になった後の生活に与える二次的な影響にも目を向けることにつながり、貧困の世代間連鎖という現象を説明するものとなる。

(4) さらに剥奪という概念を介して貧困を捉えることが重要である。この概念を用いることにより私たちは貧困を、物質だけでなく機会が奪われているという子どもにとって能動的な状態として理解することができる。

(5) 「貧困／不利／困難」を抱えることの多い児童養護施設の出身者に対しても、働く機会、住まいの確保と並んで自己肯定感を高めることが有用である。

(6) 母子寡婦福祉法が時代遅れになっている。母子の綴じられた関係を避けるために

「二者関係を越える他者や居場所」が必要である。

(7) 母子家庭の母親は「不安定な雇用」「母子家庭特有の問題」「社会的・経済的課題」「家庭教育の不十分」の課題を抱えている。そのため「繊細な親子関係」が築かれ、子どもが自分の希望や要望を主張することを控え、様々な機会に「我慢する子ども」の姿を認めている。母親は「子育てと仕事の両立支援」とともに、「学校と家庭の教育支援」を必要としている。また、子どもと母親の双方に二者関係を越える他者や居場所が重要になると考える。

(8) 母子生活支援施設に入っていた母親たちの自己肯定感の変化については、常に自己肯定感の高い1名を除く6名において、結婚生活を開始した頃から低くなっていった自己肯定感を、施設入所後に高めていることが明らかになった。また、母親たちの自己肯定感を高めることに寄与した施設機能やサービスのプラスの側面として、「入所者同士の交流」と「職員の存在」があることがわかった。ほかにも、「施設内保育」や「緊急一時保護」という施設機能やサービスのプラスの側面によって母親たちの自己肯定感が高まった可能性のあることがわかった。

(9) 就労自立に困難を抱える若者に関して、相談者と支援者が共同で「振り返り」を行ないながら、相談者自身の「成長」を確かめ合う「プロセス」が重要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計31件)

(ア) 埋橋孝文、子どもの貧困とコンピテンシー、イントレコウク、査読無、No.1035、2013、13-19

(イ) 埋橋孝文、日本の生活保護とセーフティネット、産政研フォーラム、査読無、101号、2013、8-14

(ウ) 山村りつ、子どもの貧困をどう捉えるべ

きか、イントレコウク、査読無、No,1035, 2013、7-12

- (エ) 矢野裕俊、A Shift away from an egalitarian system、Journal of Curriculum Studies、査読無、Vol45, No.1、2013、81-88
- (オ) 山縣文治、子どもの貧困と福祉との関連を考える、中央評論、査読無、64 巻 1 号、2012、69-76
- (カ) 田中聡子、貧困の世代間連鎖を断ち切るために、季刊公的扶助研究、査読無、No.226 号、2012、14-19
- (キ) 阿部彩、子どもの貧困と社会的排除ー子どもの社会生活は社会経済階層によって異なるのか、子ども環境学研究、査読無、7 (2)、2011 年、1-12
- (ク) 大塩まゆみ、子どものウェルビーイングの現状と課題、社会政策、査読無、3 巻 3 号、2011 年、38-48

[学会発表] (計 17 件)

- ① 阿部彩、子どもの貧困 政策の選択肢、第 72 回公衆衛生学会、招待講演、2013 年 10 月 24 日
- ② 田中聡子、反・子どもの貧困の実践ー西成区の子どもの家事業の事例を通して、社会政策学会総合福祉部会、2014 年 2 月 22 日
- ③ 田中聡子、低所得世帯の子どもたちへの学習支援と大学生ボランティアの研究、子ども家庭福祉学会、2012 年 6 月 3 日
- ④ 田中聡子、母子生活支援施設における退所後を見据えた自立支援、日本社会福祉学会、2011 年 10 月 8 日

[図書] (計 12 件)

- ① 阿部彩、子どもの貧困Ⅱー解決策を考える、岩波書店、280 頁、2014 年
- ② 埋橋孝文、生活保護、ミネルヴァ書房、270 頁、2013 年
- ③ 埋橋孝文、福祉政策の国際動向と日本の選択、法律文化社、218 頁、2011 年
- ④ 山村りつ、精神障害者のための効果的就労支援モデルと制度、ミネルヴァ書房、326 頁、2011 年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

埋橋 孝文 (UZUHASHI, Takafumi)
同志社大学・社会学部・教授
研究者番号：60213427

(2) 研究分担者

矢野 裕俊 (YANO, Hirotochi)
武庫川女子大学・文学部・教授
研究者番号：80182393

阿部 彩 (ABE, Aya)

国立社会保障・人口問題研究所・応用分析
研究部長
研究者番号：60415817

山縣 文治 (YAMAGATA, Fumiharu)

大阪市立大学・生活科学研究科・教授
研究者番号：10159204

大塩 まゆみ (OHSHIO, Mayumi)

龍谷大学・社会学部・教授
研究者番号：90269738

室住 眞麻子 (MUROZUMI, Masako)

帝塚山学院大学・人間文化学部・教授
研究者番号：00249442

居神 浩 (IGAMI, Koh)

神戸国際大学・経済学部・教授
研究者番号：70289057

田中 聡子 (TANAKA, Satoko)

県立広島大学・保健福祉学部・講師
研究者番号：30582382

所 道彦 (TOKORO, Michihiko)

大阪市立大学・生活科学研究科・准教授
研究者番号：80326272

鳥山 まどか (TORIYAMA, Madoka)

北海道大学・教育学研究科・助教
研究者番号：40459962

山村 りつ (YAMAMURA, Ritsu)

同志社大学・高等教育研究機構・特任助教
研究者番号：80609529

室田 信一 (MUROTA, Shinichi)

首都大学東京・都市教養学部・准教授
研究者番号：00632853

劉 眞福 (RYU, Jinboku)

環太平洋大学短期大学部・こども教育専攻・専任講師
研究者番号：70708643

岡崎 裕 (OKAZAKI, Yutaka)

プール学院大学・国際文化学部・准教授
研究者番号：50513727